

「白門40年会」の発足経過

1. 同期会結成の動機

昭和40年3月卒業生を対象にした、又本校初の「ホームカミングデー」が、平成2年11月18日多摩校舎において催され、大勢の仲間が集い、懐かしい昔話に花を咲かせました。

しかしこれを機には未だ、同期会を結成する機運は盛り上がりがないでいたところ、平成7年3月中央大学学員会より、学員会年次支部を兼ねた同期会の結成の呼びかけを受けた

のが「白門40年会」の発足準備のスタートでした。

2. 結成準備活動

- (1) 学員会の呼びかけに応じて平成7年4月17日参集した同期生は、僅か5名で誠に心細いスタートとなりました。
- (2) その後準備活動の核となる仲間づくりの方法として、「ホームカミングデー」に参加した首都圏

在住の同期生に声をかけ、次々に仲間が仲間を呼び、約70名の準備委員会を構成するようになりました。

- (3) 準備会は次のとおり十数回開催され、種々問題点について意見を出し合い、意見を集約していききましたが、その間準備委員は同期会結成に向けて強い絆で結ばれるようになりました。

- 2 -

準備委員会開催日

平成7年	5月29日	7月20日
	8月21日	9月20日
	10月20日	11月20日
	12月5日	12月20日
平成8年	1月24日	2月20日
	3月8日	3月28日
	4月3日	4月19日
	4月26日	5月8日

3. 結成に向けての基本的考え方

我々準備委員は、同期会づくりの基本的な考え方として、次のことを念頭において準備活動を続けて来ま

した。

- (1) 仲間の親睦を図ることを第一義とし、会や組織の拘束を緩やかに保つこと。
役員の組織をシンプルにし、会の活動が円滑に行われるようにしました。会則も最小限の事項しか決めていません。
- (2) 会の永続性を考え、会員の経済的負担を軽くすること。
入会制度をとらず、会費を年3000円としたのもその表れです。
何より経費の節減を図ったの

が、同期生に対する入会の勧誘方法です。

学員会において所在を把握している同期生は6000人弱ですが、全員に案内文を郵送するだけで50万円を要します。そこで準備委員を中心として、自分のゼミ、クラブ、研究会等の仲間のリストを提供してもらい、千数百名に発送しただけですが、420名を超える入会申込をいただきました。

- 3 -